

郡山市生成AI 活用ガイドライン 【第4版】



人口減少社会・超高齢社会において、限りある職員数で行政需要に対応するためには、デジタルを最大限活用した行政運営が不可欠となります。

職員数が不足し、行政課題に対応できない事態を避けるためにも、生成AIを皆さんのパートナーとし、上手に活用していく必要があります。

第4版 主な改定ポイント

- ① 部局・所属固有の業務に対応する生成AIサービスの利用、又はシステム構築予算を計上する場合の対応を明記（P4）
- ② 生成AI特有のリスクケースへの対応を整理（P6）
- ③ 「exaBase生成AI for自治体」の特徴的な機能及び留意事項を追加（P8～13）
- ④ 「exaBase生成AI for自治体」でPDF及び音声データがアップロード可能となったため、留意事項等を整理（P13）

1 生成AIを利用する場合の5つのルール



(1) 利用できる生成AIは、「テキスト生成AI」のみ

(2) 本ガイドラインに定めのないツールやサービスの利用禁止

(3) 機密性3情報は取り扱わない

(4) 原則として、生成物はそのまま利用しない

(5) 権利侵害や虚偽の情報を含む生成物の排除

(1) 利用できる生成AIは、「テキスト生成AI」のみ

- **画像、動画、音声の生成AIは、生成物によって著作権を侵害する恐れを排除することができないため、原則、使用を禁止するものとします。**



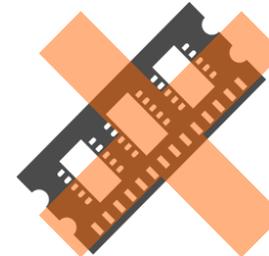
テキスト生成

質問を入力することにより、AIが内容を解析し、回答を作成する



画像生成

入力内容に応じて、AIが画像を生成する



動画生成

入力内容に応じて、AIが動画を生成する



音声生成

入力内容に応じて、AIが音声を生成する

- **テキスト生成AIは、一部の適さない事項を除き、様々な業務で活用できます。**

効果が期待できるものの一例

- 挨拶文、添書等の案の作成
 - 世代間における文章の言い換えや多言語翻訳
 - 計画等の文書を作成するための章立て
 - キャッチフレーズ等のアイデア出し
 - 多種多様な課題の発見とその解決方法のアドバイス
- など様々な業務で活用することができます。

適さない事項

- 検索エンジンのような活用（偽情報がまぎれる）
- 業務マニュアルやフローチャートの作成（必要な情報を生成AIが学習していない）
- 税額の計算等の正確性が高度に求められるもの

(2) 本ガイドラインに定めのないツールやサービスの利用禁止

- 入力した内容が学習されることを防ぐため、**業務上利用できる生成AIは原則として以下に掲げるもののみ**とします。
- 本ガイドラインの内容をよく理解の上、適切に使用してください（末尾に掲載している[チェックリスト](#)を活用しましょう。）。
- 「exaBase生成AI for自治体」については、事業者提供研修動画の視聴を推奨します。

環境	行政A I マサルくん	exaBase生成AI for自治体
利用可能ユーザ	会計年度任用職員を含む全職員	会計年度任用職員を 除く 正職員、任期付職員、再任用職員
端末機	執務室で使用している業務端末機 ※ スマホからでも使用可能	執務室で使用している業務端末機
接続環境	インターネット接続系	LGWAN接続系
特徴	国が発行している各種「白書」や「基本計画」等が追加学習されており、行政情報に基づく高い正確性が期待できる。	<ul style="list-style-type: none"> 「GPT-4o」を始め、任意の大規模言語モデルを選択して利用可能（一部は文字数制限付） 独自データ連携機能を有している。
利用開始時期	2024年2月～	2024年10月～
取扱可能な情報	機密性1（公表可能な情報）のみ	機密性2 （秘密文書に相当しないが、直ちに一般に公表することを前提としていない情報）まで可

※ 例外：部局・所属固有の業務に対応するため利用等する生成AIサービス（次ページ参照）

(2) 本ガイドラインに定めのないツールやサービスの利用禁止

部局・所属固有の業務に対応する生成AIサービスの利用、又はシステム構築に関する予算を計上する場合は、以下のとおり御対応ください。

- まずは事前にDX戦略課まで御相談ください（ネットワーク構成のほか、セキュリティ担保の観点から確認、助言を行うため）。
- 新たに生成AIを含むシステム構築に関する予算を計上する場合は、統括情報セキュリティ責任者（政策開発部長）に対し、情報システム企画書を提出する必要があります。
- プロンプトに応じ、チャット形式で回答が生成されるもののみならず、バックグラウンドで生成AIが動作するシステムも本ガイドラインの対象となります。
（例．福祉分野の相談業務に導入した「相談内容要約システム」）
- 画像生成、動画生成、音声生成は行わないものとしてください。
- 以下のような措置を講じ、セキュリティを担保する必要があります。
 - ☑ 入力した情報は学習させない仕組みとする（オプトアウト）
 - ☑ 機密性3の情報は取り扱わない
（インターネット接続系で利用する場合、機密性2・3の情報は扱わない）
 - ☑ サーバーは国内設置に限る

(3) 機密性3情報は取り扱わない

3ページに掲載のとおり、利用できる環境に応じて情報の取扱制限を設けていますが、**特に機密性3の情報についてはいずれの環境においても取扱禁止**とします。

	機密性	セキュリティポリシー上の分類	情報資産の例
取扱禁止	3	秘密文書に相当する、高い機密性を要する情報資産	個人情報、契約関係情報、訴訟・審査請求等に関する情報
	2	秘密文書に相当しないが、直ちに一般に公表することを前提としていない情報資産	内部通知、事案決定手続を経ていない企画資料、経常業務の事務手順や実績
	1	機密性2・3以外の情報資産	市ウェブサイト等で公開済みの行政情報

(4) 原則として、生成物はそのまま利用しない

- 生成した文書は**原則としてそのまま利用せず、職員の手で推敲**してください。
- やむを得ずそのまま引用する場合は、**出典を明記**してください。
【記載例】 この文章の全部（又は一部）は「exaBase生成AI for自治体」から引用しています。
- 例えば、長文の多言語翻訳について、生成AIによる出力結果であって、誤りが含まれる可能性があることを明示した上で表示するといったことが考えられます。

※ 2024年4月に総務省・経済産業省が示した「AI事業者ガイドライン」において、AI利用者においてもアカウントビリティを果たすことが求められています。

(5) 権利侵害や虚偽の情報を含む生成物の排除

生成AI は、その特徴から、出力結果に関して以下のようなケースが生じる可能性があると考えられていますので、右欄に掲げる対応を行うようにしてください。

(「行政の進化と革新のための生成AI の調達・利活用に係るガイドライン」(2025(令和7)年5月27日デジタル社会推進会議幹事会決定)による。)

リスクケース	対 応
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 生成AI が人種・性別・文化等に関する偏見や差別を含む社会的に大きな問題となり得る出力を行った。 ➤ 生成AI が攻撃的又は危険な出力を行った。 	<p>生成物は利用せず、その内容をDX戦略課まで報告してください(DX戦略課から、職員への注意喚起及び事業者への情報共有を行うため)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 生成AI が事実と異なる情報を出力し(ハルシネーション)、職員がその情報を利用したことによって職員又は第三者に不利益を与えた。 ➤ 生成AI により既存の作品に類似し、著作権の侵害等の問題が生じる可能性が高いコンテンツを意図せず生成し、利活用したことで当該作品に係る権利者等から削除等の申出を受けた。 	<p>職員又は第三者に不利益を与えたり、著作権侵害等に至ったりしないよう、生成物の利用前に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存の著作物等に類似しないか確認 ✓ 虚偽の情報が含まれていないか疑い、ファクトチェックを徹底してください。

※「ハルシネーション」について：性質上、誤った出力を完全に防ぐことは極めて難しいとされているほか、従来のAIでも指摘されていた学習過程・出力過程の信頼性・透明性への懸念、大量のデータに潜む偏見や差別等のバイアスをそのまま再生成することなど、様々なリスクが指摘されています。

(1) 行政AIマサルくん



「マサルくん」を起動する方法

- 1, PCを使う方法
あなたがPCの場合、「AIを利用する」を押すと、GPTが全画面に広がります。
- 2, スマホを使う方法
あなたがスマホの場合、「AIを利用する」を押すと、LINE経由で使えます。



AIマサルくんPRO版の無料体験は期間限定です。申し込んだメールアドレスに自動で、パスワードが送られてきます。

自治体職員であれば誰でも、緑色の「無料版」を自由に使えます！



①インターネット環境のEdge
又はChromeを起動し、管理
対象のブックマークから「マ
サルくん」にアクセス

②「AIマサル 無料版」をクリック
して、「マサルくん」を起動

③「公務員業務モード」等の利用
したい機能をクリックして開始
する

(2) exaBase 生成AI for 自治体

特徴的な機能と留意事項

アクセス方法を始めとした使い方は、「exaBase生成AI for 自治体の基本的な使い方」に別途まとめていますので、これを参照してください。

以降、特徴的な機能及び利用時の留意事項を掲載しています。



チャットパートナー（大規模言語モデル）の選択

概要

- 大規模言語モデルには得意分野があり、用途に応じて使い分けることができます。
- RAG機能、画像データ等のファイルアップロード機能を利用できるものがあります。
- 各チャットパートナーの特徴は、別途作成する「言語モデル一覧」で確認できます。

留意事項

- 利用できるチャットパートナーは、随時更新します。
※ 国内のサーバーで処理されるものを使用することとし、DX戦略課が管理します。
- チャットパートナーには、月間利用文字数が無制限のもの（Economy）と、制限付きのもの（Standard）があります。後者は、利用状況により一時的に利用できなくなる場合があります。

GPT-4o mini  / Economy

: 制限なし

文書検索 (RAG) GPT-4o / Standard

: 制限あり

(2) exaBase 生成AI for 自治体

特徴的な機能と留意事項



RAG (Retrieval-Augmented Generation) 機能

概要

- 独自のデータ（各種計画や庁内向けマニュアルなど）を参照させた回答を生成できる機能です。
※ 次ページに、RAG機能の利用有無による生成結果の対比を例示しています。
- 郡山市の計画や特性を反映した精度の高い回答生成や内部事務マニュアルの検索、庁内の問合せ対応の自動化などへの応用が可能です。

留意事項

- 特定のチャットパートナー（「文書検索(RAG)」のもの）で利用できます。
- RAG機能は、独自データベースの情報を参照した上で回答を生成することで、精度を向上させるものです。データベース非搭載の情報に係る回答精度は向上しません。
- 参照元のデータベースの情報が正確であっても、ハルシネーションを引き起こす可能性があります。
- データベースはDX戦略課で構築しており、搭載資料は11ページのとおりです。
- 機密性3情報を含むデータは搭載できません。

(参考) RAG機能の利用による回答精度の向上例

指示：町内会の新年会で市長が読み上げる挨拶文を、500字程度で考えてください

RAG機能を使用しなかった場合 (GPT-3.5：標準精度を選択)

尊敬する皆様、

新年あけましておめでとうございます。私たちの町内会の一員として、この特別な日を迎えることができ、心から感謝しております。

新しい年を迎えるにあたり、私たちはまず感謝の気持ちを忘れずに始めたいと思います。皆様の温かいご支援と協力がなければ、私たちの町は成り立ちません。心から感謝申し上げます。

今年も私たちの町は、さまざまな課題に立ち向かわなければなりません。しかし、私たちは困難に立ち向かう強い絆を持っています。地域の一体感と協力を大切に、困難を乗り越える力を発揮していきましょう。

町内会は、地域の結びつきを深めるための重要な役割を果たしています。今年も地域の交流やイベントの開催など、様々な活動を通じて絆を深めていきます。皆様のご意見やご要望をお聞きし、より良い町づくりのために努力してまいります。

(中略)

新年のご挨拶と町内会の活動についてお伝えしましたが、最後に私たちの町の未来について考えることが大切です。私たち一人ひとりが積極的に関わり、責任を持ちながら、地域の発展に寄与していきましょう。

新年を迎えるにあたり、皆様のご健康と幸せを心からお祈り申し上げます。本年も皆様にとって充実した一年となりますよう、心からお祈りしております。(1202字)

⇒文字数の指定が守られず、一般的な内容の挨拶文が生成されました



RAG機能を使用した場合 (文書検索 (RAG) GPT-4o / Standardを選択)

新年あけましておめでとうございます。

町内会の皆様には、輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は多くのご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年は**市制施行100周年**の記念すべき年であり、これまでの歴史と功績を振り返りながら、次の100年に向けて新たなスタートを切る年にしましょう。

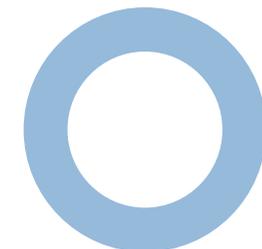
2030年のSDGs目標年限や2050年のCO2排出量実質ゼロを視野に入れ、**「ベビーファースト」**の理念のもと、**DX**（デジタルトランスフォーメーション）を加速させ、市民・団体・事業者の皆様との**「公民協奏」**によるGX（グリーントランスフォーメーション）にも取り組んでまいります。

先人から受け継いだ**「開物成務」**の精神を胸に、誰一人取り残されることなく、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じられる**「ウェルビーイング (well-being) なまち郡山」**の実現を目指してまいります。皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町内会の皆様とそのご家族のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。(442字)

※「2024年度 郡山青年会議所広報誌1月号 年頭祝辞」および「郡山商工会議所 会報1月号 新年の御挨拶」を参照して生成

⇒文面が、過去の市長挨拶文を参照した構成となっており、本市独自のキーワードが含まれた挨拶文を生成できました



独自データベース 搭載資料

- 登載するデータやフォルダ構成は予告なく変更となる場合があります。
- 計画やマニュアルを改定した際は、データベースを更新する必要があるため、DX戦略課へ御連絡ください。
- 下記のほか、特定の所属のみが閲覧できるフォルダを作成することも可能ですので、DX戦略課へ御相談ください。

No	カテゴリ（参照フォルダ名）	データの内容
1	01_各種計画	ガルーン掲示板の「共通掲示板＞各種計画」に掲示している計画でそれぞれ最新のもの（概要版や添付資料等は除く）
2-1	02_マニュアル関係	ガルーン掲示板の「共通掲示板＞庶務担当者テキスト」に掲示しているテキスト（概要版は除く）
2-2		ガルーン掲示板の「共通掲示板＞契約事務＞共通＞電子契約＞電子契約運用マニュアル」に掲示しているもの全て
2-3		ガルーン掲示板の「共通掲示板＞契約事務＞委託契約関係＞手引き等」に掲示しているもの全て
2-4		ガルーン掲示板の「共通掲示板＞契約事務＞委託契約関係＞電子入札＞電子入札操作マニュアル」に掲示しているもの全て
2-5		ガルーン掲示板の「共通掲示板＞政策開発部＞DX戦略課＞マニュアル関連」に掲示しているもののうち、 <ul style="list-style-type: none"> ・生成AI活用ガイドライン ・デジタルツール活用ガイド ・行政手続オンライン化ガイドライン ・オンライン申請サービスの基本的な使い方
3	03_郡山市STANDARD	郡山市STANDARD
4	04_市長あいさつ文	2019年度以降のあいさつ文
5	05_市議会定例会会議録	2020年3月以降の郡山市議会定例会会議録
6	06_例規集	郡山市例規集に登録されている条例、規則等

(2) exaBase 生成AI for 自治体

特徴的な機能と留意事項



プロンプトテンプレート機能

概要

- 「プロンプトテンプレート機能」とは、生成AIから精度の高い回答を得る確率を向上させるため、あらかじめプロンプト（生成AIへの質問や指示）が設定されているものです。
※ 生成AIから期待どおりの回答を得るには、適切なプロンプトが重要です。

留意事項

- プロンプトテンプレートは、随時更新されます。
- 常に高精度の回答が生成されるとは限りませんので、内容確認は怠らないでください。
- 詳細は「exaBase生成AI for 自治体の基本的な使い方」を御参照ください。



画像・PDF・音声データファイルアップロード機能

概要

- 画像やPDFファイル内の文字情報を読み込ませ、要約等を行わせることができます。
- 音声データは文字起こしのほか、会議の議事録・概要作成の効率化が期待できます。

留意事項

次ページのとおり

(2) exaBase 生成AI for 自治体

特徴的な機能と留意事項

画像・PDF・音声データファイルアップロード機能

品質と形式

- 鮮明で被写体がはっきり認識できるものを使用してください。【画像】
- 画像にあってはJPEG、PNGなどの静止画、音声にあってはmp3、m4aなどが利用可能です。動画ファイルには対応していません。【画像・音声】
- 音声ファイルは一度のプロンプトにつき1ファイルのアップロードが可能です。画像についても、1枚のアップロードを推奨します（一度に複数枚のアップロードも可能ですが、正しく認識できなくなる傾向が確認されています。）。【画像・音声】
- 容量が大きすぎると、アップロードに時間が掛かり、失敗する場合があります。【共通】

内容の適切性

いずれのファイルも、**以下の内容を含むデータのアップロードは固く禁じます。**

- 著作権、肖像権、プライバシー権等、第三者の権利を侵害するもの
- わいせつな内容や、差別的なもの
- 機密性3（秘密文書に相当する、高い機密性を要する情報資産）の情報が記録されているもの

業務目的の明確化

- 目的を明確化し、生成AIが適切な処理を実行できるよう、必要な情報を付与してください。
- 例えば、画像認識による書類分類、物体検出による施設管理、テキスト抽出による情報収集など、具体的な目的を明確にすることで、生成AIの性能を最大限に引き出すことができます。

3 効果的な活用方法 ～生成AIを乗り越え～

生成AIを上手に活用するには、出力してほしい内容（ゴール）のイメージを持った上で、効率的にゴールに到達するため、プロンプト（生成AIへの質問や指示）を工夫することを意識してください。「生成AIから、期待していた回答が得られない」と感じた場合は、プロンプトを工夫してみてください。



出力してほしい内容をイメージ



プロンプトの作成・入力



出力結果の確認（再プロンプト）

- ただし、詳細なプロンプトの作成にこだわる必要はありません。ブレインストーミングやアイデア出しの場合、**会話のラリーを通じて多様な視点やアイデアが引き出されやすく、議論が活発になる**ことがあります。
- プロンプトテンプレート機能を使うことも効果的です。
（「[exaBase生成AI for 自治体の基本的な使い方](#)」を参照）



出力してほしい内容をイメージ

生成AIに行ってほしいこと、どのような回答を得たいのかイメージします。理想に近い適切な回答を効率的に引き出すには、生成AIを「**極めて博識だが、業務経験が全くない新規採用職員**」だと思って接してください。

例えば・・・



生成AIの庁内利活用を推進するため、職員向けにセミナーを開催したい。所要時間は90分～120分程度。生成AIの活用方法を理解してもらった上で、参加者が即実行できるスキルを身に付けられるような内容にしたい。タイムテーブルを考えてほしい。

- イメージが具体的であるため、生成AIに明示することで、少ない会話で高精度な回答を得られます。



P16 プロンプトの作成・入力



生成AIの庁内利活用を推進したいが、どのような取組が考えられるだろうか？

- この場合は会話のラリーを前提とし、簡易なプロンプトを入力して出力結果の確認、再プロンプトを重ね、精度を向上させていきましょう。

プロンプト例：



生成AIの庁内利活用を推進する取組の案を提示してください。



P18 出力結果の確認
(再プロンプト)





プロンプトの作成・入力

以下の要素を盛り込むように工夫することを心掛けましょう。

役割

期待する応答のスタイルや内容を明確にできます。
例えば、「教師」の役割を与えて質問すれば、教育的な視点からの回答が得られやすくなります。

依頼

生成AIに行ってほしいことを伝えます。

形式

「案を五つ箇条書きで示してほしい」「表形式にしてほしい」など形式を指定することで、整理された回答を得ることができます。

【プロンプト例】

あなたは人材開発の専門家です。
職員における生成AI利活用を促進するため、セミナーの計画を立案してください。

生成AIの活用方法を理解してもらった上で、参加者が即実行できるスキルを身に付けられるような内容とし、表形式でタイムテーブルを出力してください。

- このほか、**依頼の背景、ルールや情報（RAGの活用）**を与えることで、**回答精度の向上**が期待できます。
- 生成AIに提供する情報が充実している場合は、上記のような自然な会話文によるプロンプトのほか、「**構造化プロンプト**」形式で提供するとよいともされています。



プロンプトの作成・入力

「**構造化プロンプト**」とは、生成AIが理解しやすいよう特定の形式により行う質問や指示のことで、「#」で項目を示したり、「-」で箇条書きしたりするものです。

役割

例. あなたは、外部の専門家の知見も積極的に取り入れつつ、「DX郡山推進計画」の策定を牽引する優秀な職員です。

依頼

例. 「DX郡山推進計画」の策定に当たり、盛り込むべき内容と具体的な章立てについて、以下のルールに基づき助言・提案してください。

ルール

例. - 提案する計画の章立ては、論理的かつ網羅的であり、計画全体のアウトラインを明確に示してください。
- 各章で具体的に記述すべき内容の例、考慮すべき視点を箇条書きで複数提示し、計画策定担当者が迷わず記述できるような示唆を与えてください。

形式

例. 各章の見出しを付けた上で、各章の概要とポイントは箇条書きで分かりやすく記載してください。

背景

例. - 行政職員の数は減少傾向にあり、限られたリソースで質の高い行政サービスを維持・向上させることが求められています。
- しかし、具体的な計画の骨子や、各章にどのような内容を盛り込むべきかについて、まだ整理ができていない状況です。

【構造化プロンプト】

- 高品質で一貫した出力を得やすい
- △ RAG機能を活用したFAQ対応を求めらるような場合はかえって非効率

【自然な会話文でのプロンプト】

- より自由な発想や会話形式に向いている傾向
- △ 出力の質が保証されない場合あり

➤ **使用するシーンに応じて形式を選ぶことが大切です。**



出力結果の確認（再プロンプト）

生成AIから出力された結果を確認します。

- 「[1 生成AIを利用する場合のルール](#)」に記載のとおり、原則として生成物はそのまま利用せず、既存の著作物等に類似しないか、確認虚偽の情報が含まれていないか疑い、ファクトチェックを徹底してください。
- 出力結果と欲していた内容にかい離がある場合は、改めてプロンプトを入力して回答を再生成させましょう。

〈参考〉

生成AIは、大量のテキストデータから学習して単語やフレーズの関係性を理解しており、与えられたプロンプトに応じて学習したデータから関連する情報やパターンを見つけ出し、最も関連性の高い応答を生成しています。



生成AIとは何ですか。50文字以下で簡潔に説明してください。



生成AIとは、データを学習し、新しいコンテンツや情報を自動生成する人工知能の一種です。





本ガイドラインの参考資料として、生成AIを業務利用する際に押さえておくべきポイントを整理したチェックリストを以下のとおりまとめました。生成AIの特性を十分に理解し、本チェックリストを活用の上、業務にお役立てください。

利用基準の確認

- 情報システム責任者（DX戦略課長）から支給された情報端末機で利用しているか。
- 本ガイドライン3ページに記載の生成AIを利用しているか。

情報の取り扱い

- ハルシネーションやバイアスなどの生成AIの特性を理解した上で、出力結果を適切に判断し採用しているか。
- 機密性を有する情報について、本ガイドライン5ページに基づき取り扱っているか。
- 機密性3情報（秘密文書に相当する、高い機密性を要する情報資産）を入力していないか。

出力結果の利用

- 生成物が著作権を侵害していないか確認しているか。
- 生成物に虚偽のものが含まれていないか、ファクトチェックを行っているか。
- 生成物を公開する際、人の手で推敲したか。又は、生成物をそのまま公開する場合、出典を明記したか。

活用効果の最大化

- 業務効率化や市民サービス向上などの目的を達成する観点で、生成AIを効果的に活用しているか。
- プロンプトの設計を工夫し、生成AIの出力結果が求める内容に即しているか。